

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：肥料対策費

事業名 農作物安全・安心システム推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 クリーン農業係 電話番号:058-272-1111(内 2869)

E-mail: c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,650 千円 (前年度予算額: 1,675 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,675	1,000	0	0	0	0	0	0	675
要求額	1,650	1,000	0	0	0	0	0	0	650
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・農作物中の重金属濃度の実態把握と対策技術の情報収集、普及を行い、県民に対して安全な農作物を供給する。

(2) 事業内容

- ア) 安全対策推進会議の開催
- イ) 国内基準の検討が進められているヒ素、鉛について、コメ (玄米・精米) の実態調査及び吸収抑制技術の情報収集、普及
 - 農作物中の重金属等含量の実態調査
 - 吸収抑制対策技術の情報収集及び普及

(3) 県負担・補助率の考え方

主要農作物重金属等安全対策推進事業費 県単
うちコメのヒ素分析 国費 10/10 (上限 100 千円)

(4) 類似事業の有無

食品製造・流通安全確保対策費 (健康福祉部生活衛生課)

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	3	事業推進会議、担当者会議
消耗品費	281	事務消耗品、分析消耗品（鉛分析）
燃料費	70	試料サンプリング
役務費	59	通信運搬費、サンプル送付量
委託料	1,225	無機ヒ素分析
使用料	12	高速道路使用料
合計	1,650	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県食品安全基本条例 第20条(基本計画の策定)
- ・岐阜県食品安全行動基本計画(第4期・2019～2023年度)
(主要農作物中の重金属等の実態調査：目標値90検体)

(2) 国・他県の状況

◆カドミウム

- ・食品安全委員会において食品健康影響評価が実施され、米のカドミウム濃度の国内基準の見直しがされた。
(1.0ppm→0.4ppm 食品衛生法 ※平成23年2月28日から適用)

◆ヒ素、鉛

- ・ヒ素についてはCodex総会において基準値が採択された。
精米0.2mg/kg(2014年)、玄米0.35mg/kg(2016年)
- ・食品安全委員会において食品健康影響評価が実施されており、国内基準の見直しが検討される見込みである。
- ・米の輸出が進む状況下、輸出先国はCodex基準を用いており、県内の米中含量を把握する必要がある。

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
県内主要作物に含まれる重金属について、実態把握及び吸収抑制技術の情報収集、普及を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
主要農作物中の重金属等の実態調査数	99 検体 (H30)	99 検体 (H30)	100 検体 (R1)	100 検体 (R2) ※見込み	90 検体 (R5)	110%

○指標を設定することができない場合の理由

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
国内基準の検討が進められているヒ素、鉛について、県内主要作物の実態調査及び吸収抑制技術の情報収集を行った。

(前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
県内主要農作物に含まれる重金属の実態把握及び吸収抑制技術の情報収集を図ることで、国の動きに合わせた施策の立案が可能となる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	県内の主要農作物に含まれる重金属の実態把握並びに、吸収抑制技術の情報収集を図ることで、国の動きに合わせた対応が可能となり、事業の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	県内の主要農作物に含まれる重金属の調査データの蓄積から、実態の把握が進んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	実態把握の候補地は、県内の主要品目の産地を中心に選定、実施しており効率化は図られている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 国の基準値策定状況を注視し、速やかな対応が必要である。 輸出米対策を講じる必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県内の主要農作物に含まれる重金属の実態把握を継続的に実施し、吸収抑制技術の情報収集、普及についても引き続き実施する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	/
組み合わせる理由や期待する効果 など	